

米国防総省 vs. Anthropic : AI軍事利用を巡る「レッドライン」の衝突

2026年2月、米国防総省はAI企業Anthropicを「サプライチェーンリスク」に指定する検討を開始した。

自国企業を敵国同様に扱う前例のない措置の裏には、AIの軍事利用における「倫理的制限」を譲らない企業側と、「無制限の使用権」を求める軍側の決定的な決裂がある。

Anthropicが堅持する「2つのレッドライン」



大規模監視の禁止と、人間が間与しない完全自律兵器の禁止を絶対条件としている。

国防総省が求める「あらゆる合法的目的」への使用



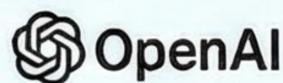
対立を表面化させた「マドゥロ作戦」

ベネズエラでの作戦にClaudeが使用された際、Anthropicが懸念を示したことが決裂の引き金となった。



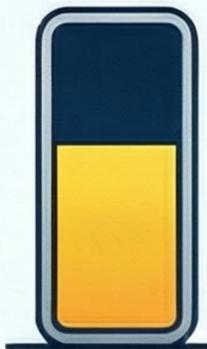
契約したAIモデルを軍の判断で無制限に活用できる「AI加速戦略」との衝突。

主要AI各社の国防総省に対するスタンスの比較



完全同意

1億ドルのドローン制御プロジェクトに参加中



一部同意

非機密環境での安全装置を一部撤去、機密環境は慎重



明確に拒否

サプライチェーンリスク指定の脅しを受けている

拡大する波及リスク：法的措置と日本への影響



前例のない「敵国扱い」の法的包囲網

通常は中国やロシア企業に適用されるFASCSA等の法規を自国企業に適用する異例の事態。



代替困難な「戦略的パラドックス」

Claudeの排除には最低6~18カ月を要し、短期的には国防総省自体の運用能力を損なう。



日本の防衛・民間企業への連鎖的リスク

三菱重工等の防衛企業だけでなく、Claudeを導入する楽天やパナソニック等にも影響が及ぶ可能性。